

ホタルブクロ

高知 四年 風花

朝の会で、先生が花を見せてくれた。赤むらさきい色の小さなフクロのようなつぼみがたくさんついていた。先生は、花を見せながら、「この花は、ホタルブクロという花です。近所の人にもらってききました。一度しおれても、水切りをすると、元のようにシャキツとなるそうです。夜に水をすい上げるので、夕方に水をかえてあげるといいそうです。」

と、教えてくれた。

そのあと、

「さっき、真理ちゃんが、『夜に水をすい上げて活動するき、ホタルなが?』と言ったけど、本当やろうか。よかったら、どうしてホタルブクロというのか、だれか調べてきてください。」

と言った。

私は、名前が面白くて花がかわいくきれいだったので調べてみようと思った。それと、先生に言われたから、人より早く調べたかった。

学校が終わった。私は、いそいで家へ帰った。

「ただいま。」

「お帰り。」

おじいちゃんが、ゆっくり言ってくれた。

私は、おじいちゃんにホタルブクロのことを話した。

「あのね、今日、朝の会の時に、先生がホタルブクロっていう花を持ってきてくれたがよ。それでね、なんでホタルブクロっていうか調べて来てって言いよったき、調べたいがやけど、ホタルブクロのことを書

いてある本ない？」

おじいちゃんは、

「たしか：この本にホタルブクロのことを書いてあると思うけど…。」
と言いながら、『植物図かん』を見せてくれた。でも、ホタルブクロの写真はあるけれど、どうしてその名前が付いたのかは書いてなかった。

私は、「はあ」とため息をついて、

「どうしてホタルブクロっていうのかが知りたいのに…。」

と言った。おじいちゃんは、

「本屋へ行って調べてみようか。お兄ちゃんのノートを買いに行くら、本屋へよって見たらいろいろ。」

と言ってくれた。私は、

「うん、そうする。」

と喜んだ。

私はすぐにおじいちゃんの車に乗った。

サニーアクシスの中の本屋へ連れて行ってもらった。

本屋に着いて、おじいちゃんが『山野草について』の植物図かんをさがしてくれた。

ホタルブクロについて書いてあった。おじいちゃんは、それを声に出して私に読んでくれた。そのあと、走ってエレベーターの横のいすまで行った。おじいちゃんは、いすにすわって、ウエストポーチからちらしの紙とえんぴつを出した。そして、さっき私に読んでくれたこのメモをとった。

私は、ひまだったので、

「ねえ、おじいちゃん、アイス買って。」

と、おねだりした。おじいちゃんは、

「忘れるき、だまっちょいいて。もう…。」

と言って、ひっしにメモをとった。

私は、おじいちゃんがメモをとっているのをちらっと見て、じやましちやいかんと思った。

家へ帰った。

私は、メモを見ながら、ホタルブクロについて書いた。

ホタルブクロ

昔、ホタルをつかまえて、この花に入れたということから、この名前が付いたという説があります。

たれてさいいた花は美しく、ホタルの光でさらに美しく見えて、風情があります。

① 酢を入れた湯にさっと入れて、サラダを作ることもできます。

② 若葉は、あげるとおいしい。

ホタルブクロには二種類あるそうだ。ピンクのような色をしたのはホタルブクロで、赤むらさきっぽい色はヤマホタルブクロというそう。先生が持ってきたホタルブクロはヤマホタルブクロとわかった。



(指導 森知美香)